



「『高知の授業の未来を創る』推進プロジェクト事業 令和4年度 高知の授業づくり講座」では、学習指導要領が目指す授業づくりを押し進めるとともに、日常的に授業研究に取り組む風土づくりを行い、自ら学び続け、共に高め合う教員の育成を目指し、拠点校を会場に教材研究会・授業研究会を1セットとして、年間2セット実施します。高知市の中学校国語の拠点校である春野中学校の第3回【教材研究会】(10月18日実施)、第4回【授業研究会】(11月17日実施)を中心に本単元の学びの様子を紹介します。

単元名：「# (ハッシュタグ) 春中発信！六年生のあなたにこそ読んでほしいこの名著 ～根拠を明確にして自分の考えを書く～」【出典】『助言を自分の文章に生かそう 作品の書評を書く』(光村図書『国語1』)

第3回 教材研究会

指導における課題を解決するための単元づくり

<これまでの授業における生徒の状況>
 ・書くことへの抵抗感が高くないが、自分の考えを思いのままに書いている。
 ・相手や目的を意識して、根拠や例を挙げながら考えが伝わるように書くことに課題がある。

↓

「指導における課題」
 ・単元を通して「毎時間文章を磨き上げていく指導ができていない。
 ・根拠(事実・情報・データ・具体例)と自分の意見のつながりに着目せず、伝えたいことが伝わる文章になっているか考えさせる指導ができていない。
 ・相手や目的に合った文章が書けているか吟味する指導ができていない。

↓

相手や目的を意識して、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして文章を書く力を付ける！

<本提案の指導上のポイント>
 ・毎時間、修正し積み重ねてきた過程を可視化することで、単元を通して文章を磨き上げていくことができるようにする。→Googleスライドの活用
 ・選んだ本を要點別に評価し分析させることで、伝えたいことを明確にさせる。
 ・読み手に伝えたいことを伝えるために、必要となる根拠(叙述・推察などの具体例)が何かを考えさせる。→思考の構造化

第4回 授業研究会

言語活動を通して資質・能力の育成を図る単元構想

時	学習活動
1	学習の見通しをもつ。 小学6年生にすてきな本を選び、書評を書く。
2	本の価値が伝わる書評には、どのような工夫があるのかを考え、自分の文章を見直す。
3	本の価値を伝える表現が読み手を引き付けるものになるように、より価値が伝わる表現の工夫を考え、文章を見直す。
4	書評を2年生に読んでもらい、自分の書評のよい点や改善点を整理し、文章を見直す。

【単元の目標】
 【学びに向かう力、人間性等】
 書かすもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にすると、思いや考えを伝え合おうとする。

【知識及び技能】
 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えをあげたりすることに役立つことを理解することができる。(31ア)

【思考力、判断力、表現力等】
 根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(B11ウ) 根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(B11オ)

【単元計画】

【本時の目標】
 根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。

「言語活動」の創意工夫

生徒の主体的な学びのエンジンとなる魅力的な言語活動、単元における課題解決的な活動を仕組む。

本提案では、小学校からの依頼を受け、小学6年生(相手)の読書の幅を広げ、本の価値を伝えるため(目的・意図)に書評を書くという、明確な他者意識、学ぶ必然性をもたせた。

【第1時(前時)】 I 「読書」の指導事項を捉えた指導の工夫

・小学6年生に行った読書アンケートを基に読書傾向を捉えた上で、「読書記録シート」から本を選ぶことで、「どの本を」「なぜ相手に薦めたいのか」を明確にさせる。

・選んだ本を見せながら伝えたいことを説明したり、知りたことや分らないことを質問し合ったりすることで、互いの「本の内容の理解」「書きたいことの吟味」につなげさせる。

共有したことや分析シートを活用し、書評を書く。

小学6年生の読書アンケート
読書記録シートから薦めた本を選び、読書記録シートから薦めた本を選び、共有を踏まえ、選んだ本の分析を指導中。

授業づくり講座講師 富山哲也先生による本単元への助言

「書くこと」の資質・能力の育成に向けた指導と評価

①「書くこと」の学習過程のメタ認知
 →自力で文章を書く力をつけるために、「書くこと」の学習過程を生徒自身が自覚して書き進められるように見通しをもたせる。

②モデル文の効果的な提示
 →必ず提示するのではなく、資質・能力の確実な育成につながるようタイミングや内容(生徒の表現の多様性につながるもの)を考える。

③文種としての「書評文化」の理解
 →実生活の中の「書評」の示され方、多様性を押さえた上で、目的・相手や内容を踏まえた形式・表現を選択させる。

④「書くこと」の既習事項と系統性を捉えた指導の工夫
 →これまでの読書活動に係る言語活動(目的・相手)、「書くこと」における「記述」の系統性を踏まえた指導の工夫を行う。

⑤知識及び技能「読書」の指導事項を捉えた指導の工夫
 →第1時において、自分が伝えたい本の「書評」を説明し、質問を受けさせることで、互いに選んだ本の内容の理解、書きたいことの吟味につなげさせる。

⑥「書くこと」における「根拠」の重視
 →学力調査からも、子供たちは自分の考えを繰り返して述べる等、根拠がない実態があり、「書くこと」では根拠が何度も吟味させる指導が必要である。

※本の価値について、引用等を使って説明と根拠

⑦効果的なICTの位置付け
 →今までに行っていた学習の流れに、生徒の思考を高めるようICTを位置付ける。(例：書評のリアルページにアクセスできるようにデータベースに入れ、ロイノートで思考を可視化する等)

「書くこと」の学習過程のメタ認知

→自力で文章を書く力をつけるために、「書くこと」の学習過程を生徒自身が自覚して書き進められるように見通しをもたせる。

②モデル文の効果的な提示

→必ず提示するのではなく、資質・能力の確実な育成につながるようタイミングや内容(生徒の表現の多様性につながるもの)を考える。

③文種としての「書評文化」の理解

→実生活の中の「書評」の示され方、多様性を押さえた上で、目的・相手や内容を踏まえた形式・表現を選択させる。

④「書くこと」の既習事項と系統性を捉えた指導の工夫

→これまでの読書活動に係る言語活動(目的・相手)、「書くこと」における「記述」の系統性を踏まえた指導の工夫を行う。

⑤知識及び技能「読書」の指導事項を捉えた指導の工夫

→第1時において、自分が伝えたい本の「書評」を説明し、質問を受けさせることで、互いに選んだ本の内容の理解、書きたいことの吟味につなげさせる。

⑥「書くこと」における「根拠」の重視

→学力調査からも、子供たちは自分の考えを繰り返して述べる等、根拠がない実態があり、「書くこと」では根拠が何度も吟味させる指導が必要である。

「書くこと」の学習過程のメタ認知

→自力で文章を書く力をつけるために、「書くこと」の学習過程を生徒自身が自覚して書き進められるように見通しをもたせる。

②モデル文の効果的な提示

→必ず提示するのではなく、資質・能力の確実な育成につながるようタイミングや内容(生徒の表現の多様性につながるもの)を考える。

③文種としての「書評文化」の理解

→実生活の中の「書評」の示され方、多様性を押さえた上で、目的・相手や内容を踏まえた形式・表現を選択させる。

④「書くこと」の既習事項と系統性を捉えた指導の工夫

→これまでの読書活動に係る言語活動(目的・相手)、「書くこと」における「記述」の系統性を踏まえた指導の工夫を行う。

⑤知識及び技能「読書」の指導事項を捉えた指導の工夫

→第1時において、自分が伝えたい本の「書評」を説明し、質問を受けさせることで、互いに選んだ本の内容の理解、書きたいことの吟味につなげさせる。

⑥「書くこと」における「根拠」の重視

→学力調査からも、子供たちは自分の考えを繰り返して述べる等、根拠がない実態があり、「書くこと」では根拠が何度も吟味させる指導が必要である。

「書くこと」の学習過程のメタ認知

→自力で文章を書く力をつけるために、「書くこと」の学習過程を生徒自身が自覚して書き進められるように見通しをもたせる。

②モデル文の効果的な提示

→必ず提示するのではなく、資質・能力の確実な育成につながるようタイミングや内容(生徒の表現の多様性につながるもの)を考える。

③文種としての「書評文化」の理解

→実生活の中の「書評」の示され方、多様性を押さえた上で、目的・相手や内容を踏まえた形式・表現を選択させる。

④「書くこと」の既習事項と系統性を捉えた指導の工夫

→これまでの読書活動に係る言語活動(目的・相手)、「書くこと」における「記述」の系統性を踏まえた指導の工夫を行う。

⑤知識及び技能「読書」の指導事項を捉えた指導の工夫

→第1時において、自分が伝えたい本の「書評」を説明し、質問を受けさせることで、互いに選んだ本の内容の理解、書きたいことの吟味につなげさせる。

⑥「書くこと」における「根拠」の重視

→学力調査からも、子供たちは自分の考えを繰り返して述べる等、根拠がない実態があり、「書くこと」では根拠が何度も吟味させる指導が必要である。

教材研究会を踏まえた提案整理

I 「読書」の指導事項を捉えた指導の工夫
 II 既習事項と系統性を捉えた指導の工夫
 III 「根拠」の効果についての理解を促す指導と適切な評価

「書くこと」の学習過程のメタ認知

→自力で文章を書く力をつけるために、「書くこと」の学習過程を生徒自身が自覚して書き進められるように見通しをもたせる。

②モデル文の効果的な提示

→必ず提示するのではなく、資質・能力の確実な育成につながるようタイミングや内容(生徒の表現の多様性につながるもの)を考える。

③文種としての「書評文化」の理解

→実生活の中の「書評」の示され方、多様性を押さえた上で、目的・相手や内容を踏まえた形式・表現を選択させる。

④「書くこと」の既習事項と系統性を捉えた指導の工夫

→これまでの読書活動に係る言語活動(目的・相手)、「書くこと」における「記述」の系統性を踏まえた指導の工夫を行う。

⑤知識及び技能「読書」の指導事項を捉えた指導の工夫

→第1時において、自分が伝えたい本の「書評」を説明し、質問を受けさせることで、互いに選んだ本の内容の理解、書きたいことの吟味につなげさせる。

⑥「書くこと」における「根拠」の重視

→学力調査からも、子供たちは自分の考えを繰り返して述べる等、根拠がない実態があり、「書くこと」では根拠が何度も吟味させる指導が必要である。

「書くこと」の学習過程のメタ認知

→自力で文章を書く力をつけるために、「書くこと」の学習過程を生徒自身が自覚して書き進められるように見通しをもたせる。

②モデル文の効果的な提示

→必ず提示するのではなく、資質・能力の確実な育成につながるようタイミングや内容(生徒の表現の多様性につながるもの)を考える。

③文種としての「書評文化」の理解

→実生活の中の「書評」の示され方、多様性を押さえた上で、目的・相手や内容を踏まえた形式・表現を選択させる。

④「書くこと」の既習事項と系統性を捉えた指導の工夫

→これまでの読書活動に係る言語活動(目的・相手)、「書くこと」における「記述」の系統性を踏まえた指導の工夫を行う。

⑤知識及び技能「読書」の指導事項を捉えた指導の工夫

→第1時において、自分が伝えたい本の「書評」を説明し、質問を受けさせることで、互いに選んだ本の内容の理解、書きたいことの吟味につなげさせる。

⑥「書くこと」における「根拠」の重視

→学力調査からも、子供たちは自分の考えを繰り返して述べる等、根拠がない実態があり、「書くこと」では根拠が何度も吟味させる指導が必要である。

「書くこと」の学習過程のメタ認知

→自力で文章を書く力をつけるために、「書くこと」の学習過程を生徒自身が自覚して書き進められるように見通しをもたせる。

②モデル文の効果的な提示

→必ず提示するのではなく、資質・能力の確実な育成につながるようタイミングや内容(生徒の表現の多様性につながるもの)を考える。

③文種としての「書評文化」の理解

→実生活の中の「書評」の示され方、多様性を押さえた上で、目的・相手や内容を踏まえた形式・表現を選択させる。

④「書くこと」の既習事項と系統性を捉えた指導の工夫

→これまでの読書活動に係る言語活動(目的・相手)、「書くこと」における「記述」の系統性を踏まえた指導の工夫を行う。

⑤知識及び技能「読書」の指導事項を捉えた指導の工夫

→第1時において、自分が伝えたい本の「書評」を説明し、質問を受けさせることで、互いに選んだ本の内容の理解、書きたいことの吟味につなげさせる。

⑥「書くこと」における「根拠」の重視

→学力調査からも、子供たちは自分の考えを繰り返して述べる等、根拠がない実態があり、「書くこと」では根拠が何度も吟味させる指導が必要である。